

玉掛索 (ロープスリング)

取扱説明

ご使用前にこの取扱説明を必ずお読みいただき、内容をよくご理解いただいた上で玉掛索をご使用下さい。

■ 玉掛索は使用荷重、つり本数、つり角度及びつり方を考慮して安全率(安全係数)が6以上確保できるよう(クレーン等安全規則で決められている)選定してください。安全率が不足していると、急激な衝撃荷重や損傷劣化などにより破断する恐れがあります。

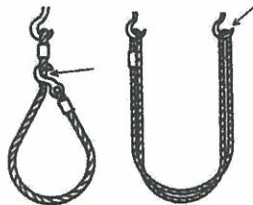
■ つり角度はできるだけ60°以内にして下さい。つり角度が大きくなると玉掛索に大きな張力がかかり、危険です。



● 2本吊りの場合

つり角度(θ)	0°	30°	60°
1本のロープにかかる張力(使用荷重に対する倍率)	0.5	0.52	0.58

■ フック部などでロープを小さく曲げると強度が低下します。大きくできない場合は、低下率を考慮して玉掛索を選定して下さい。

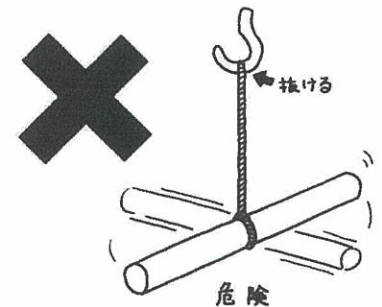


● 6×24の場合

ロープ径に対する曲げの大きさ(直径)	1倍	5倍	10倍	20倍
強度低下率	50%	30%	25%	10%

■ 台付索は玉掛作業には使用しないで下さい。台付索には加工方法の規定がなく、玉掛作業に使用すると抜ける恐れがあります。

■ 玉掛索は1本吊りでは使用しないで下さい。つり荷が回転したり、加工部(特に巻差しの場合)が抜けたりして危険です。



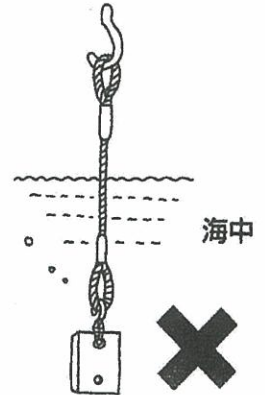
■ 玉掛作業は、労働安全衛生法に定められた有資格者が行って下さい。つり荷の重心判断やつり方を誤ると、大事故になる恐れがあります。

玉掛技能講習終了証	
第 09-5427 号	氏名 五樹 太郎
平成 6年5月30日	大 昭和 62年 7 月 7 日生
平成 年 月 日交付	〒 〇〇 〇〇
協賛 大阪労働基準連合会	

Wスリング

■ロープのねじれや曲がりが発生したら、修正しキックさせないようにして下さい。

■玉掛索は消耗品です。廃棄基準を超えたものは絶対使用しないで下さい。
強度が著しく低下しているので大変危険です。



■JIS B8817ワイヤロープスリングの点検、廃棄基準は下表のとおりです。

点検項目	点検の種類		点検方法	廃棄基準
	日常	定期		
1. 断線	○	○	目視	素線がロープ1よりの間において最外層ストランド中の総素線数の10%以上断線しているもの、又はロープ5より間において20%以上断線しているもの。
2. 摩耗	○	○	計測	摩耗によって直径の減少が公称径の7%を超えるもの。
3. 腐食	○	○	目視	腐食によって素線表面にピッチングが発生して、あばた状になったもの。 内部腐食によって素線が緩んだもの。
4. 形くずれ	○	○	目視	形くずれによってキック及び著しい偏平化、曲がり、かご状などの欠陥が生じたもの。
5. 電弧又は熱影響	○	○	目視	テンパーカラー又は溶損の認められるもの。
6. 塗油の状態	○	○	目視	
7. アイ部、圧縮止め部	○	○	目視	亀裂、変形、ロープのずれ、又は著しいきずなどが発生しているもの。

■玉掛索の使用に際しては、製品ラベル等によりロープ構成、ロープ径、破断荷重又は、種別を確認して下さい。
間違った玉掛索を使用すると、強度不足等により事故発生の恐れがあります。



■酸やアルカリの腐食雰囲気や100℃を超える高温雰囲気では使用しないで下さい。腐食、熱影響等により、強度が低下し、危険です。

■急激な衝撃荷重がかからないようにして下さい。

■玉掛索を鋭い角で曲げないよう、必要な場合は当て物をして下さい。

■玉掛索は消耗品です。必ず保守及び日常点検、定期点検を実施し、損傷の程度を常に把握して使用して下さい。

